



ヤチダモ、トネリコ

(車場1)

車場1丁目の信越本線ガード近くの阿部家の玄関前に、樹高18~20に余りの大きな「たも木」が2本植えられています。この2本のたも木は、幹周り2.3にのヤチダモと2.2にのトネリコで、いずれも市内屈指の巨木であり、樹齢は百年近いものと推定されています。

ヤチダモとトネリコは樹皮と葉の形状の違いによって容易に区別することができます。この地方では、木肌の滑らかなトネリコを「黒たも木」、樹皮に縦に裂け目のあるヤチダモを「白たも木」と呼んでいます。どちらも、稲を乾燥させる「稲架木」として利用されてきました。かつて、至る所で稲架木並木が見られ、越後平野特有の田園風景をつくり出していました。



リレー

随想

(267)

*このコーナーは、寄稿者が次の寄稿者を紹介して随想をリレーしていくコーナーです。

講演会から

立石 進 (美幸町二)

信越線の西沿いを通り、古津駅の先から八幡山道跡へ抜ける道を、一年ほど前から何度か歩いている。田園と新興住宅地からなる平らな道から、わずかなかりの坂道を登ると、深山の霧囲気を味わうことができ、気に入っている。そこは信濃川沿いにあったであろう村落

昔と同じ価値観で今の子どもたちを見るのは間違いないのだろう。別のスケールで計ることが必要であり、その感覚を身に付けることが大切なのだろう。

講演の中で「一番大切なことは何ですか」という問いかけがあった。私の頭に浮かんだのは、仕事であり、友人であり、家族であり、亜紀子さんにとって一番大切なものは「今、生きている」こと。明日はない、今しかないのだから、病氣から逃げず、絶える力を頼み、現状を素直に受け止めたからこそ、人を思いやり、感謝の念で精一杯生きることができたのだろう。講演を聞いた大勢の親子と一緒に受けた感動は、計り知れないものだ。時代を越え、亜紀子さんの目と心を通して共感し、共通のスケールで個々の持つ価値観を少しずつ修正できたのではないだろうか。

を守る北限の磐跡で、弥生文化に触れられる場所でもある。一度、子どもを連れていったことがある。口にごそ出さないが、何とも言えぬ良い顔をしていて、少し故郷を見直した様子であった。

植木さんの娘の亜紀子さんは、三歳のときに急性白血病と診断され、亡くなる小学五年生まで入院生活を繰り返し、苦しい治療と闘いながらも、平安心を失わず、人思いやり続け、その最後の言葉は「ママ、ごめんね」だったという。植木さんは、その開病記「あつこ日記」の著者である。

このバトンを出谷町二の佐々木修作さんへリレーします。

新津市の人口

男	32,078	(+ 3)	} 6月30日現在 (内)は前月比		
女	34,397	(+ 6)			
計	66,475	(+ 9)			
世帯数	18,944	(+17)			
6月中の動き					
出生	46	死亡	46	転入	130
転出	121	結婚	43	離婚	4

お買物、ご用命は市内で

花嫁の夢・ゆめ・ユメ

を、かなえる。

Bridal
Salon

伝

丸

伝

新津店 本町1丁目 ☎(24)3355代 新潟店 古町九番町 ☎025(228)5881

♥デリカ家だより♥

夏のヘア・ケア、キャンペーン実施中
シャンプー、ヘアローション30%OFF
(お1人 1セット 先着 100名様まで)
中元カツウラサボンセット20%OFF
夏休みおやつ材料いろいろ入荷

デリカ家 ♥長崎屋店 ☎24-7936 ♥荻川店 ☎25-2990